

令和 3 年 8 月 23 日現在

機関番号：34503
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2016～2020
 課題番号：16K02041
 研究課題名（和文）同性カップルと子どもに関する縦断調査：クイアな家族形成過程に対する支援の可能性

 研究課題名（英文）Qualitative Longitudinal Interview for same-sex parenting with children;
 Possibility of supporting for Queer Family

 研究代表者
 藤井 ひろみ (Fujii, Hiromi)

 大手前大学・国際看護学部・教授

 研究者番号：50453147
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000 円

研究成果の概要（和文）：同性のパートナーとの子育てを希望しているレズビアン・バイセクシュアル女性を対象に、家族形成過程を3年間調査する縦断的インタビューをおこなった。研究参加者は4人であった。SOGI（性的指向・性自認）状況は、全員がシスジェンダーの女性で、同性愛2人と両性愛2人であった。パートナーの性自認は女性（3人）、Xジェンダー（1人）で、全員が法律上同性のカップルであった。妊娠から子の未就学段階までのライフステージで、家族形成過程の中心的役割を担うのは子を出産する側の女性であった。精子ドナーに関する子どもの受け止めと、同性パートナーが子育てに関与できることの二つが、家族形成の鍵となっていることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、現代日本において同性カップルがどのように家族形成過程を辿っているのかを明らかにするために、3年間の縦断調査を実施し、個々の家族観や関係性が時間的積み重なりの中かでどのように変化し、支援の必要性があるのかを観察しようとしたものであった。結果、家族形成過程の初期に中心的役割を担うのは子を出産する側のレズビアン女性で、精子ドナーに関する子どもの受け止めと、同性パートナーが子育てに関与できることの二つが、家族形成の鍵となっており、産科施設や保育所などの受け入れが支援となることがわかった。本結果は、日本におけるレズビアン・バイセクシュアル女性の育児支援の方向性の根拠資料となると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The research was designed as a three-year-long cross-sectional study of family formation, with lesbian and bisexual women wishing to raise children with their same-sex partners as subjects. There were four participants. Their SOGI (Sexual Orientation / Gender Identity) are cisgender women two identifying themselves as homosexual and two as bisexual with their partners' gender identification being female (3) and X gender (1); all participants are same-sex in legal.

Lesbian and bisexual women have been found to assume the core roles in the formation process for families, at least for the period from pregnancy through the pre-school stage. How the child understands the role of the sperm donor is a key issue for the formation of families. And one more key is the childcare participation of the same-sex partner, rather than just the birth mother.

研究分野：ジェンダー

キーワード：レズビアン 性的多様性 性的指向 同性パートナー LGBTQ 性自認

1. 研究開始当初の背景

1999年のオランダに始まった同性婚は、現在22カ国で法制化されている。カナダを例にとると、2012年時点で全世帯の0.4%が同性カップルと子どもからなる世帯である。また同性婚制度がない国を含め、出生証明書やパスポートなどの公的記載における性別を男女だけに限らない制度を設ける国もある。それまでの伝統的な性の在り様とは異なり、異性愛者でない人々の存在が可視化される社会の変化を背景とし、これまで自然視されてきた「男女」やその紐帯を基盤とした関係性、すなわち社会の最小単位としての家族的関係の形成は複雑化してきており、性別・ジェンダー・セクシュアリティ等の多様性を前提に、理解する必要がある。

多様な家族に関する研究はこれまで、人類学における親族研究や、家族社会学や発達心理学に関連した学問分野が牽引してきたことに加え、1990年代から勃興してきたクイア・スタディーズは、社会的規範の規範たる存在意味を逆に非伝統的異性愛者を含む多様な性の解釈の限界を広げ、家族問題についてもその射程に捉え、家父長制の再生産や家族規範によって個人のセクシュアリティが抑圧されるという家族の側面が指摘されてきた。性別・ジェンダー・セクシュアリティ等が多様な状況にある人にとっての家族形成上の課題についても、定位家族内でのカミング・アウトという事象にとどまらず、自らが選択して形成する家族すなわち、パートナーさらには子どもをもうけ育てることなどへと、広がってきている。

日本においても、2015年以降、自治体において限定的ではあるが同性パートナー間の関係性が承認されるなど、性的多様性に対応した家族的関係の保障は新たな段階に進んできたように見える。こうした動きに先だって、筆者が国内でおこなった2004年の調査で既に、同性パートナーシップをもつ当事者のなかに、同性パートナーとの関係性の社会的保障や養子縁組・生殖補助医療を用いて子どもを持つことへのニーズがあることは明らかになっている。

欧米の生殖補助医療を提供する機関では、同性カップルや性別変更前のトランスジェンダーの人々を、生殖補助医療のサービス対象者と見做し積極的に介入している。グローバル化した情報社会の中で、日本でも同性婚や生殖補助医療を活用して子どもを持つなどの多様な家族形成について諸外国からの情報は入手しやすくなった。しかし一方では、日本国内では未だ同性婚や同性カップルに対する生殖補助医療に関する議論は十分ではなく社会的コンセンサスに至っていないとは言えない状況である。こうした状況において、日本の同性パートナーシップを持つ人たちは、どのように定位家族とは別の、自らの家族を形成しているのか、その実態を明らかにした上で、議論を進める必要がある。

2. 研究の目的

そこで本研究は、次の2点を研究課題とした。

1：日本国内で同性パートナーを持つ人たちは、どのように家族形成過程を辿っているのか、その特徴を明らかにする。

2：家族形成過程（ライフイベントまたは経年的な）での変化から、家族形成の課題と支援の必要性について、検討する。

<以上の参考文献>

有田啓子，堀江友里，藤井ひろみ（2006），交渉・妥協・共存する「ニーズ」 同性間パートナーシップの法的保障に関する当事者ニーズ調査から ，女性学年報，27，4-28.

三部倫子（2014），カムアウトする親子 同性愛と家族の社会学，御茶の水書房

3．研究の方法

スノーボールサンプリングによって出会った研究対象者に対して、構造化及び半構造化面接を年次毎に対象者の可能な範囲で1～6回、3年間継続的に行う縦断調査を行った。

(1) 研究期間 2018年から2021年3月。

(2) 研究対象者

育児中の同性カップル関係を持つ人。4人。

* 用語の定義：育児中の同性カップル関係とは、研究に参加する本人もしくはその同性パートナーのいずれかが、実親もしくは養親になる希望をもち、実際に行動に移した（ている）ことをいう。また同性カップルとは、性別変更をしている場合には、「出生時の性別との同性（現在は異性）」もカップルとして含め、していない場合は戸籍等上同性を指すこととする。

(3) 研究経過

2018年10月	倫理審査
2019年1月	研究対象者のリクルート
2019年1月～ 2021年2月	データ収集 年2回の面接を2021年度末まで実施し、一部継続中。 面接場所は 研究参加者宅 会議室 面接時のデータ収集内容は、下記(1)(2)の通り。 (1) 構造化及び半構造化インタビュー（別紙5）：約60分 構造化インタビュー ・ 基本データ[年齢、職業の有無、家族構成、ソーシャルサポート] ・ 同性カップル間のジェンダー状況[レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの組み合わせ、自らのジェンダー] ・ 子どもの状況 半構造化インタビュー ・ 誰を家族と考えているか、なぜそう考えているのか

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族形成に関するこれまでの過程と現状の家庭生活上の（最近の）ライフイベント ・ 家庭生活上のイベントによる困難感と支援ニーズ <p>インタビュー内容は同意を得て録音し、逐語録に起こしてデータとする。</p> <p>(2) 自己記入式質問紙調査</p> <p>併せて、面接時に自己記入式調査用紙への回答協力を依頼した。</p>
2019年～2021年	<p>分析</p> <p>量的データは一次統集計し、質的データは内容分析した。</p> <p>ただし、量的データはサンプル数が不十分であったため最終的には分析対象外とした。</p>
2021年3月～終了時	<p>成果公開</p> <p>なお、最終的な分析結果は、論文要約の形式にして希望者に送付する。</p>

4. 研究成果

(1) 研究に参加した家族の概要

研究参加者は4人であった(図1)。AさんとBさんはカップルであったため、3家族が本研究の分析対象となった。SOGI(性的指向・性自認)状況は、全員がシスジェンダーの女性で、同性愛2人と両性愛2人であった。

	2008～	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019～	2020
A/B交際同居			ドナーを探す	A出産 退職 実父母の近居 へ転居	再就職 保育所利用			自治体でパートナーシップ承認制度開始	
		不妊治療		C出産 保育所利用	実両親と同居		現在のパートナーと出会うも別居		
現在のパートナーと出会う		不妊治療	D出産				小学校入学	自治体でパートナーシップ承認制度開始	

図1 研究者の概要

調査期間中、2020年から新型コロナウイルス感染症により社会全体で外出を自粛し、仕事はリモート化、学校は休校となった。しかし、保育所は休園せず、保護者がエッセンシャルワークについている場合やひとり親家庭の場合、子どもを保育園に受け入れる処置が取られ、本研究もこうした社会的変化の影響を受けた。

(2) レズビアン・バイセクシュアル女性に必要な家族形成の支援

レズビアンやバイセクシュアル女性は、少なくとも妊娠から子の未就学段階までのライフステージで、実母や同性パートナーと協働しながらも、自分・子・同性パートナーで構成される家族

形成過程の中心的役割を担っていた。この中でテーマとなったのは、1) 生殖補助医療へのアクセス、2) 妊娠・出産を経験する者とそうでない者の親性発達の過程の違い、3) 緊急事態宣言期間を経た暮らしの変化が抽出された。

(3) 研究の限界と今後の課題

当初数年間にわたる質的縦断調査を日米で行う計画であった本研究であったが、2020年からの調査活動は限定されたものとなった。最終段階まで調査を継続できる対象者数が限られ、またインタビューでの子どもの自由な同席も限られたことから、研究参加者の育児に関する自由な想起も計画時に比べ限定された可能性がある。また同性パートナーと子育てをする女性が中心となり、男性同士のカップルや、シングルなどを含む、多様な性的マイノリティの家庭を検討することは今後の課題である。一方で、緊急事態宣言期間直後でかつパンデミックの最中の調査となったことで、貴重な資料が得られた側面もある。世界中ほとんど全ての人々が被った事象を、性的マイノリティがどう経験したか、その一部を記録することができたことは意義があると考えられる。本研究は研究参加者の同意を得ている範囲内で、今後も継続する予定である。その strength と新たな家庭像を明らかにしていく必要がある。

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 藤井ひろみ	4. 巻 59(4),
2. 論文標題 nursingとeducationとLGBTQ第1回まずは言葉の理解から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護教育	6. 最初と最後の頁 307,
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井ひろみ	4. 巻 59(6)
2. 論文標題 nursingとeducationとLGBTQ第3回「健康なLGBTQ」が抱える健康課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護教育	6. 最初と最後の頁 511
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井ひろみ	4. 巻 59(8)
2. 論文標題 ursingとeducationとLGBTQ第5回同性愛指向や性別違和をもつ看護学生への対応	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護教育	6. 最初と最後の頁 729
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井ひろみ	4. 巻 59(10)
2. 論文標題 nursingとeducationとLGBTQ第7回「LGBTの問題に対する看護の沈黙」を破るために	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護教育	6. 最初と最後の頁 941
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiromi Fujii	4. 巻 -
2. 論文標題 Sexual norm for lesbian and bisexual women in culture that lesbianism is not enough acceptable: The Japanese survey about sexual behavior STIs preventable behavior and the value of sexual relation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of homosexuality	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00918369.2017.1413275	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤井ひろみ	4. 巻 2(2)
2. 論文標題 LGBTの暴力被害とケア	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本フォレンジック看護学会誌	6. 最初と最後の頁 67-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井ひろみ	4. 巻 189
2. 論文標題 看護におけるLGBTへの支援	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 心の科学	6. 最初と最後の頁 45-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井ひろ, 中田ひとみ	4. 巻 29(2)
2. 論文標題 性の多様性と社会の課題/可能性	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 103-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井ひろみ, 布施香奈, 釜野さおり	4. 巻 62(2)
2. 論文標題 「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」からみた シスジェンダーのレズビアン・バイセクシュアル女性における家族形成ニーズ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 母性衛生	6. 最初と最後の頁 521-531
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 藤井ひろみ, 布施かな, 釜野さおり
2. 発表標題 「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」からみた女性同性カップルの家族形成ニーズ
3. 学会等名 第60回日本母性衛生学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiromi Fujii
2. 発表標題 The experiences of transgender nurses in caring
3. 学会等名 TNMC & WANS international resurch conference 2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤井ひろみ
2. 発表標題 セクシュアルマイノリティと家族計画: セクシャル・マイノリティに関する人口学的研究-日本における研究動向の今-
3. 学会等名 日本人口学会第68回年次大会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hiromi FUJII
2. 発表標題 The experiences of transgender nurses in caring
3. 学会等名 The 14th Congress of Asia-Oceania Federation of Sexology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤井ひろみ
2. 発表標題 レズビアン・バイセクシャル女性と医療従事者の相互作用-6事例の分析から-
3. 学会等名 第36回日本性科学学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤井ひろみ
2. 発表標題 トランス女性である看護師の視点から見た患者からの性暴力
3. 学会等名 日本フォレンジック看護学会第7回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤井ひろみ
2. 発表標題 同性パートナーと子育てをする女性の家族形成過程-妊娠から子どもの就学までに焦点を当てて-
3. 学会等名 第35回日本助産学会学術集会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 編者 有森尚子、著者 五十嵐ゆかり・小澤千恵・片岡弥恵子・辻恵子・蛭田明子・藤井ひろみ・村田美里・森明子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 228
3. 書名 母性看護学 概論	

1. 著者名 藤井ひろみ	4. 発行年 2017年
2. 出版社 PHP出版	5. 総ページ数 63
3. 書名 よくわかるLGBT	

1. 著者名 はたちさこ, 藤井ひろみ, 桂木祥子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 保育社	5. 総ページ数 174
3. 書名 LGBTサポートブック	

1. 著者名 杉浦郁子, 野宮亜紀, 大江千束	4. 発行年 2016年
2. 出版社 緑風出版	5. 総ページ数 249
3. 書名 パートナーシップ・生活と制度:結婚、事実婚、同性婚(増補改定版)	

1. 著者名 加納尚美, 李節子, 家吉望み	4. 発行年 2016年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 192
3. 書名 フォレンジック看護 性暴力被害者支援の基本から実践まで	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------